



Title	共同研究：観世元章の能楽改革（三）
Author(s)	
Citation	演劇学論叢. 2004, 7, p. 377-377
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/97524">https://doi.org/10.18910/97524</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ■共同研究

### 観世元章の能楽改革（三）

と考えている。  
なお、この共同研究欄に掲載された過去二回の論考は以下のとおりである。

#### 〔第五号〕

明和改正謡本における「伊勢物語」関係曲…………橋場 夕佳

——新註との関係を中心にして——

観世元章の『鉄輪』……………中尾 薫

——明和改正の実態とその影響——

明和の改正と「三読物」関係曲の演出……………天野 文雄

——『安宅』『正尊』『木曾』の小書などをめぐって——

#### 〔第六号〕

観世大夫元章と『関寺小町』……………橋場 夕佳

——元章手沢本『留十番』の書入をめぐって——

小書「足佐走」考……………長田あかね

——『誓願寺』『当麻』の後シテの装束をめぐって——

明和改正謡本と現代の能（一）……………天野 文雄

——清音から濁音への改訂をめぐって——

ところで、平成十七年度の演習は明和改正謡本を中心とした元章の能楽改革に代わって、「申楽談儀」を読む予定である。もとより、それは元章の明和の改正についての検討が終わつたとか一区切りがついたとかいうことではなく、学生が主体となる演習において、元章の能楽改革とは別の視点から能楽を考えてみる必要を感じたからである。考えてみれば、これまでの明和の改革についての検討も、われわれに従来にはなかつた能楽研究上の視点をもたらしてくれたのであつた。もつとも、演習の対象は変わつて元章の明和の改正をめぐる問題を論じた論文は、次号以後もしばらくは「共同研究」として本誌に継続して掲載してゆきたい

また、この一年間に、本誌以外の研究誌に発表された明和改正謡本関係の論文には、中尾薰氏の「明和改正謡本と田安宗武——新作能『梅』をめぐって——」（『能と狂言』2号）、「田安宗武と明和改正謡本——田安家旧蔵版本番外謡本の書き込みをめぐって——」（『芸能史研究』166号）がある。

（天野文雄）